

まえがき

地震調査研究推進本部（以下、「推進本部」という。）は、平成9年8月、「地震に関する基盤的調査観測計画」を策定した。更に、推進本部では平成16年度を目途に、ある期間内にある地域が強い地震動に見舞われる可能性を確率を用いて予測し、全国を概観した地震動予測地図を作成することとし、地震発生の可能性等についての長期評価を主要な活断層帯や海域において進めてきた。これまでの評価結果の中では、糸魚川—静岡構造線断層帯及び宮城県沖の2地域でとりわけ高い地震発生の可能性が評価され、推進本部は、平成13年8月、「地震に関する基盤的調査観測計画の見直しと重点的な調査観測体制の整備について」を決定し、基盤的調査観測網に加え、活断層に起因する地震や海溝型の地震などの長期評価の結果等により、地震発生の危険度が相対的に高いと判定された地域について重点的に調査観測体制を整備することによって

- ・ 長期的な地震発生時期、地震規模の予測精度の向上
- ・ 強震動の予測精度の向上
- ・ 地殻活動の現状把握の高度化等地震発生前・後の状況把握

を図ることとし、当面、現時点で高い地震発生の可能性が評価された上記2地域についてパイロット的な重点的調査観測体制を整備していくこととした。

以上を踏まえ、文部科学省では、大学、関係行政機関及び関係する研究開発法人と連携して、上記2地域において、平成14年度から3年計画で、パイロット的な重点的調査観測を行うこととした。

宮城県沖地震に関する重点的観測については、東北大学を幹事機関、気象庁（仙台管区気象台）を現地事務所とし、東京大学地震研究所、海上保安庁、国土地理院などの関係機関と連携して、実施計画に従い調査観測を行うこととした。本報告は平成14年度に宮城県沖において行われた調査観測を取りまとめたものである。

も く じ

「宮城県沖地震に関するパイロット的な重点的調査観測」

まえがき

1. 趣旨	8 1
2. 調査観測の報告	8 6
2.1 宮城県沖の地震活動の履歴に関する調査	8 6
2.1.1(a) 地震観測データに基づく過去の履歴および活動様式に関する調査	8 6
2.1.1(b) 地震観測データに基づく過去の宮城県沖地震の震源再調査	9 5
2.1.2 津波波形解析による過去の宮城県沖地震の調査	1 0 1
2.1.3 歴史史料に基づく過去の宮城県沖地震の調査	1 0 6
2.2 地震観測による地殻活動モニタリング	1 1 4
2.2.1 海底地震観測	1 1 4
2.3 地殻変動観測による地殻活動モニタリング	1 1 9
2.3.1 海底地殻変動	1 1 9
2.3.2 陸上 GPS 連続観測による地殻活動モニタリング	1 2 5
2.3.3 宮城県沖地域水準測量調査	1 3 1
2.4 プレート境界およびその周辺域の地殻構造調査	1 3 6
2.4.1 宮城県沖における地殻構造探査	1 3 6
3. 重点的調査観測推進委員会構成員	1 4 1
4. 重点的調査観測推進委員会開催実績	1 4 2